



《巻頭言》

“自由と放縦”

八洲化学工業株式会社顧問 小島雄次

自由ほど自分自身を拘束し、自分を抑えることが多い。このことを若い人にお話すると反論がとび出して来る。その都度私は自由と放縦は違うのであると説明をしてきた。放縦は気ままにすることを意味している。社会生活で皆が放縦に走れば法治国としての法律は壊れ混乱におちいるのである。自由とは気ままに振るまうことではない。私は自由とは規律正しく枠内での選択なり又は言論なり行動を意味していると思っている。

農薬においても対象物に対して同種類の内から自由に選ぶことが出来るが、使用基準の枠内での使用がおさえられている。これを充分考えて使用すれば効果は十分発揮出来るのである。それをつかって気ままに使用して効果が無いとか薬害が出たとか言うことは、自由と放縦から考えれば後者である。

開発メーカーは研究者を揃え日夜研究にたづさわりの莫大な経費と、長い年月を経て造りだされ、国の機関などで使用方法、毒性等のあらゆる試験をして許可されるのである。その許可の内容は完璧に近い使用基準にのって使用するよう丁寧に指導されている。勿論農薬の製造、保管、管理、輸送についても定められた内容で行なわれているのである。

農業技術は新しく開発される資材によって進歩し完成への道をたどるのである。また逆に考えれば農業技術を完成させる為に資材が要求されるのである。

農業機械の進歩は実に目覚ましいものがある。省力化、効率化が要求され農具から機械へと進み機械で田植えから収穫まで出来るようになった。肥料の使用についても普及が進んで来た。農薬は新しい効果の薬剤が次々と開発され、特に頑固な雑草についても有効な薬剤が開発されている。

これらの農業機械、肥料、農薬の戦後から今日迄の農業生産に寄与したことは実に大きいものがある。農家の生産の為に労働時間は短縮され、余剰時間は農家所得の増加は勿論日本経済発展の為に源動力となっている。

除草剤の使用により省力化が進み、農家労働の他方面への進出が可能になってきた。このことが美しい水田、美しい果樹園、美しい畑がつけられ、美しい豊かな農村が出現し、若い人々が楽しく働くことが出来る農村の建設が出来れば、これにこしたことはない。

最近話題になっているゴルフ場の農薬のことであるが、或るゴルフ場で農薬に関する掲示があった。「最近ゴルフ場に於ける農薬使用による井戸水、排水等の汚染が問題化され話題にのぼっておりますので、当倶楽部に於ても水質の分析検査を行いました結果、異常の無い事が判明しましたので御報告致します。分析結果は左記の通りです」とあり、残留農薬研究所の分析検査報告が掲示してあった。ゴルフ場使用農薬についても放縦な使用にならないよう、効果のある基準づくりが必要である。